

壁と応援団 2022年度卒塾生より

やさしくてひかえめな女の子—中1入塾テストにやって来たKちゃんの印象である。この穏やかで口数の少ない子がまさかここまで頑張り通せるとは、この時は予想だにできなかった。

スタートは仮入塾。入塾テストの計算合格に複数回費やし、基礎能力テスト結果も最下位だったこともあり、本入塾は1ヶ月後の最初のパートテスト3枚を全て満点合格することが条件だった。かなり厳しい条件である。だが、彼女には、その見た目からは想像できないほどの“努力する”という才能があり、また、サポートしてくれる温かい家族がついていたのだ。どんどん進む授業に宿題、テスト。1ヶ月苦しんだが見事合格した。最初の壁を越えることができた。

中1のスタートは学年順位78位、通知表34。定期テストの要領もわからなかった。だが、そこから彼女は一步一步休むことなく上を目指して進んで行き、一つ一つ壁を乗り越えていく。

「西村先生へ 本年もよろしくお願ひ申し上げます。な、なんとっ！！Kが数学の月例で塾で2位？！驚きです。のろまなカメは、ウサギさん達の姿が遠くに見えてきたのでしょうか？？入塾した頃、涙を流して悩んでいたKはもういません。今年も熱く、そして温かいご指導、どうぞよろしくお願ひ致します。M」入塾以来、毎月月謝袋に入れてくださるお母さんからのお手紙である。中2の冬、英語や数学は塾のみんなと肩を並べるくらいにまで伸びた。

志望校をはっきりと千種高校に決めたのは、中2の第5回全県模試の結果を見たときである。内申38、偏差値55.5（国語や社会が足を引っ張った）からはじき出された千種への合格可能性は10%。普通なら諦めるところだが、ここまで自分の足で登ってきた彼女は違った。

「西村先生へ いつもお世話になっております。先日の全県模試の結果を見て、Kは『やっぱり千種高校に行きたくなった』と言いました。私は『Why?』と心の中でささやきましたが、『そうとなれば死に物狂いやで！』たまには真剣にもなる母でございます。M家大応援団の結成です！！いばらの道になることが予想されますが、あせらず希望を持って進んで欲しいです。『フレーフレー、K！ファイティン、K！』2年生ラスト月もよろしくお願ひいたします。M」

中3。やれる限りの努力でまずは内申の壁を越えた。42である。学年順位も11位まで来た。あとは受験の実力をつける必要がある。最後まで苦しんだ国語は、まさに死に物狂いで取り組み続け、最後の最後、入試本番で最高の点数を取ることが出来た。ミスチルの「終わらなき旅」がKちゃんへの応援歌だとお母さんは仰っていたが、まさに彼女は高い壁を超えたのだ。

応援団に支えられて頑張れたKちゃん。千種で現れる壁も彼女ならきっと乗り越えていく。